

# Spiritualism News Letter

2008  
新年号  
(第40号)  
1月1日発行

スピリチュアリズム・ニューズレター

発行/スピリチュアリズム・サークル 心の道場  
発行人/小池里予  
〒441-3141 愛知県豊橋市大岩町字北山468-1  
TEL 0532-41-0537 FAX 0532-41-8257  
ホームページアドレス <http://www5a.biglobe.ne.jp/~spk/>

今号の内容

- ・死の直後の様子と幽界での生活—2…………… 1
- ・スピリチュアリズムから見た“オーラの泉”  
ニセ霊能者によるベテンの現場の実況放送……………18
- ・スピリチュアリズム・ライブラリー……………33
- ・スピリチュアリズム・ビデオ&テープ・ライブラリー……………34

## 死の直後の様子と幽界での生活—2

先回のニューズレター39号では、死の直後の様子を中心に述べてきました。今回は幽界での生活について見ていきます。

死の眠りから目覚め、自分が死んだことを自覚すると、いよいよ霊的世界での生活が始まります。自分の死を自覚するまでの時間は普通、死後3日～1週間ぐらいと言われます。自分が死んだこと

を悟ると、指導霊とともに、死後の最初の霊的世界である「幽界」に入っていくこととなります。幽界は、欧米では「アストラル界」とか「ブルーアイランド」と呼ばれてきました。この幽界は、どのような世界なのでしょう。また他界者は、そこでどのような体験をすることになるのでしょうか。

### 一人の女性の幽界での体験談

ここでは一人の女性の幽界での体験談を見ることにします。この現地報告を通して、幽界に対するより実感をともなった理解が得られるようになるものと思います。

ここで取り上げる女性は“ローズ”とあって、『500に及ぶあの世からの現地報告』の中に登場する霊です。地上時代はロンドンで花売り娘をしていました。交霊会では、地上人（ウッズとグリーン女史）から、さまざまな質問がローズに投げかけられました。彼らの質問に対してローズは、実に分かりやすい答えを示しています。交霊会の時期は、1952～53年頃と思われる。



紹介が終わってウッズが尋ねた。

「そちらはどのような世界ですか？」

「あなたは私に、こちらの世界のことを物質的な言葉で語るように言っておられるのですか？ 私は、どのように話し始めたらいいのか分かりません。もしあなたが、美しいものを美しくないものとの対比なしに考えるとしたら、美しいものとは何か、はっきり分からないはずですよ。美しい自然環境、花々、鳥、木々、湖……これらの美しさを知ることはできないでしょう」

「そちらでは太陽はいつも輝いていますか？」

「はい、いつも輝いています。私がこうした言い方をすると、皆さんはそれを単調なもののように考えるかもしれませんが、実際はそうではありません。皆さんが想像するようなものとは全く違ってきます」

### ●幽界での園芸について

「花を育てることは、地上世界より簡単ですか？」

「こちらでも花を育てます。花は地上と同じように育って大きくなります。しかし、こちらの世界には季節というものはありません」

「花を育てる方法や技術は地上とは違いますか？ 例えば、水をやりたりしなければなりませんか？」

「その必要はありません。私の知っているかぎりでは、こちらの花は自然に育つのです」

### ●幽界の町や村について

「そちらの世界は地上よりずっと美しいという点を除けば、地上世界ととても似ているのですか？」とウッズが聞いた。

「今、私は自分が住んでいる世界に限ってお答えすることができるのですが、こちらには本当に広大で美しい多くの界層世界があり、それぞれの生活が営まれています。今、私が住んでいる所は、イギリスの美しい田舎にとっても似ています。周りの風物に関して言えば、ここには皆さんの知っている自然界のすべてのものがあります」

「そちらには町や村がありますか？」

「あなたが想像されるような町はありませんが、地上の町のような所はあります。そこには何千人という人々が集まって生活しています。しかしバスや電車はありません。そういうものはこちらでは必要ありません」





### ●幽界での移動について

「他の場所に行くときには、どのようにするのですか？」

「歩いて行きます。もし離れた所へ行くときには、目を閉じて行きたいと思う場所のことを考えるだけです。そうするだけでその場所に行けるのです」

### ●幽界での家について

「ローズさん、あなたは家に住んでいるのですか？」

「はい、私は家に住んでいます。しかしこちらの世界では、必ずしも家は必要ありません。そうは言っても、私はこちらで家に住んでいない人にまだ出会ったことがありません」

「どのような家があるのですか？ 地上のような家なのですか？」

「こちらにはあらゆるタイプの家があります。あなた方が田舎で見たことがあるような小屋のようなものから、家族全員が住んでいるような本当に大きな家まであります。肝心なことは、こちらの世界では、家は住む人の好みによってどのようにでも造られるということです。もちろんどの家もリアリティーがあります。どの家もここに住んでいる人々によって造られます。しかし家の造り方は地上世界とは違います」

「地上の大工のような人は必要ないのですか？」

「こちらにも建築家とか設計士のような人たちがいます。彼らが家を設計して建てるのですが、地上のように辛い肉体労働によって建てるものではありません。こちらの労働は、本当に楽しい造形作業なのです」



### ●幽界でのお金儲けと奉仕作業について

「そちらではお金を使うようなことはないのですね？」

「お金！ こちらではお金で何かを買うようなことはしません。誰でも地上で作り上げた生活習慣や価値観によって欲しいと思うものがありますが、こちらでは、それを思うだけで簡単に手に入れることができるのです」

「私が聞きたかったのは、あなた方はどのようにして大工に仕事を頼むのかということですが……」

「私たちは、彼らにお金を払うわけではありません。彼らは家を建てるのが好きだから家を建ててくれるのです。家を設計するのが好きだからそうしてくれるのです。その仕事が好きだからしてくれるのです。それは演奏家がバイオリンを弾くのと同じことです。彼らは、楽器を弾いて友人や人々を喜ばせることがとても嬉しいのです」





### ●幽界での職業・仕事・労働について

「では、そちらの人々は相手を喜ばせるために、愛のためにすべてのことを行なうのですか？」  
「そうです。すべてを愛の思いからします。……話は変わりますが、仮に地上で音楽家や芸術家になりたかったのにそのチャンスがなかった人は、こちらではそれを実現することができます」

「そちらでは、自分がしたいと思ったことは何でもできるのですか？」

「そうです。地上の多くの人々は毎日奴隷のように労働をしなければならず、自分が本当にしたいことはできません。時間がなかったりお金や教育がないために、好きなことができません。しかしそういう人たちもこちらへくると、自分のしたいことが何でもできるようになります。ここでのそうした仕事は、彼らにとって喜び以外の何ものでもありません」

### ●幽界での食事について

「あなたはそちらで食事をしますか？」ウッズが話題を変えて質問した。

「フルーツもナッツも食べます。こちらには果物やナッツの木があります。他にも地上にある、ありとあらゆる食べ物があります。しかし動物を殺して肉を食べるということだけはしません。こちらには肉の類<sup>たぐい</sup>は一切ありません」

### ●幽界での生け花について

「ローズさん、花はどのように利用するのですか？ 花を使って美しく飾り付けをするようなことをしますか？」

「もし、あなたがそうしたいと思うなら当然それはできます。花を摘んで家の中に飾ることもできます。しかしこちらの世界にくと、ほとんどの人はそういうことをしなくなります。こちらにきて間もない人は、家を花で飾ることもあります。彼らは、家の中を花で飾ることは素敵なことだと考えています。しかし、やがてそれは不必要なことだと分かり始めます。花を摘むことは必ずしも善いことではないと、分かるようになるのです。

花は自然界の一部であり生命が宿っています。花を摘むことは正しくありません。それに、わざわざ花を摘んで家の中に持ってこなくても、自然の花の美を鑑賞できるのです。もしあなたが戸外の花々を見たいときには、わざわざ外へ出る必要はありません。ただ家の中に座ったまま、その花のことを考えるだけで見ることはできるのです」





### ●幽界の時間と空間について

「家のドアや窓を開けたりするようなことをしますか？」

「その必要はありません」

「もし私がイスに座ってプリントさんのサークルに行きたいと思えば、目を閉じてただ考えるだけでいいのです。次の瞬間、そこにいるのです。皆さん方には少々奇妙に聞こえるかもしれませんが、事実なのです。本当にその通りなのです。地上で言う“時間”と“空間”は、こちらでは何の意味も持ちません」

### ●幽界の動物について

「そちらの動物は人間に馴れていますか？」 ウッズは再び話題を変えて質問した。

「とても馴れています。動物たちはみな、ペットのネコのようにおとなしいのです」

「動物たちが殺し合うというようなことはないのですか？」

「ありません。そういうことは地上界だけのことです。地上では、ある面で動物本能が彼らを“弱肉強食”へと駆り立てていると言えるかもしれませんが、こちらにすれば地上のような動物本能は直ちに消え失せます」

### ●幽界での食欲について

「食べる必要がない！ 何て素敵なことかしら。料理もつくらなくていい」とグリーン女史が言った。

「その通りです。もちろんこちらにきたばかりで、ある食べ物が食べたいと思う人もいます。その場合には、それを食べることができます。しかし、すぐに食べ物に対する嗜好性はなくなります。ほどなく食欲は消え失せるのです」

### ●幽界での睡眠とくつろぎについて

「そちらでは寝ることはありますか？」

「はい、もし寝たいと思うなら寝ることはできます」

「でも、それは必要ではないんですね？」

「ええ、必要ではありません」

「疲れを感じることはないのですか？」

「感じません」

「精神的な疲れを感じたときはどうしますか？」

「もし精神的に疲れたら、ただ精神をリラックスさせるだけです。目を閉じ、くつろぎます。そしてしばらくして再び目を開けます。するともう疲れはなくなっています」



### ●幽界の昼と夜について

「先ほどそちらには時間や空間はないと言いましたが、物事はどのようにして進展していくのですか？ どのようにして物事の経過を知ることができるのですか？」

「分かりません。私の理解しているかぎりでは、時間を計る手段はありません。こちらには時間の意識がありません。こう言うと、あなた方には理解できないことも知っております。こちらには地上のような午後・夕方・夜といった区別はありません。地上で言う時間は、こちらでは何の影響も及ぼしません。結局、時間は地上の人間がつくり出した単なる目印にすぎません」

「そちらには昼と夜がありますか？」

「ありません。ただ地上のような睡眠・休憩をとりたいと思うなら、夜の闇が出現します。そのときは目を閉じさえすれば、すがすがしい状態になります。これ以上は、どのように説明したらいいのかわかりません」

### ●幽界の法律について

「他の質問をします。そちらには法律とか規則といったようなものがあるのですか？」 ウッズが尋ねた。

「こちらの世界には“自然法”があるだけです。こちらにくると、すぐにそのことが分かるようになります。こちらには地上世界のような法律や規則はありません。万人に当てはまり、万人が認める“法則（自然法）”があるだけです」

### ●幽界の太陽・空・雲・色彩について

「分かりました。ところでそちらには雲はありますか？ 太陽は輝いていますか？」

「太陽が輝いています。ときどき空に雲が見えますが、それは珍しいことです。こちらの空は、あなたがこれまでに見たどんな夢よりずっと美しいです。空は必ずしも青色とは限りません。ときどき緑色になったり赤くなったり、ありとあらゆる素晴らしい色に変化します」

「そちらに存在する色彩はとても美しいですか？」

「それは皆さんには想像もつかないでしょう。こちらには、地上には全く存在しない色彩があります。地上とは比較にならないほど無限の色彩があるのです」



---

## ●幽界での衣服について

「衣服はどうか？ そちらでは服を着るのですか？」

「とてもよい質問です。もちろんこちらでも服を着ます」

「それは地上のような衣服ですか？」

「いいえ、私が昔、地上で着ていたものとは違います。皆さんもこちらの世界にきたときには、そうした服は着ないだろうと思います」

「あなたが今、着ているものを説明してくれませんか？」

「人はこちらにきて間もない頃は、自分の気に入った服を着ます。今世紀にこちらの世界にやってきた女性は“ドレスはなくてはならないもの”と考えていますから、しばらくの間はそれを着ることになります。しかしやがて彼女たちは、そのドレスが本当に必要なものではないことを悟るようになり、気に入らなくなります。そして徐々に考え方を換え、結果的に服装を換えるようになります」

「ローズさん、あなたは今、何を着ていますか？」

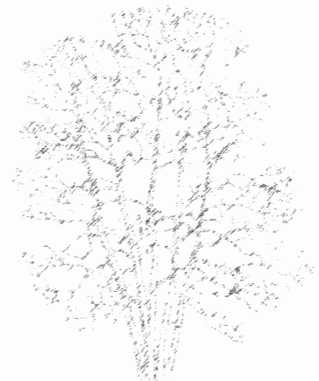
「皆さん方にどのように伝わるか分かりませんが、私は今、とても美しい白いドレスを着ています。ドレスの縁にはボタンが付いています。袖は長く、幅が広いです。体の真ん中で金色のベルトをしています」

「服の素材は何ですか？」

「地上にある素材で最も近いものを挙げるならシルクだと思います。私は髪をととても長くしています」

「洗濯をするとき何か問題はありませんか？」

「何もありません。泳ぐこともできます。もしあなたが水の中に入りたいと思うなら、その通りにできます。しかし衣服は濡れたり汚れたりしません。こちらには、チリやホコリや泥といったものはありません」





### ●幽界の川と湖について

「そちらの世界には地上のような海はありますか？」

「私はこちらで海を見たことはありません。しかしその代わり、美しい川や湖があります。どうして海がないのか私には分かりません」

「川や湖にはボートはありますか？」

「美しいボートがあります。しかし大型船はありません。とても美しいボートです。それはベニスで見かけるようなものです」

「ゴンドラのようなものですか？」

「そうです。船は花々で美しく飾られています。そしてそこで祝い事が行われます。水上は一面、光で飾られます。その光は電気やガスでつくられたのではなく、人々の心でつくられたものです。これが私の精いっぱいの説明です。私にはそのようにしか説明できません」

「何と素晴らしい！」ウッズが言った。

### ●幽界の劇場について

「そちらには町はありますか？」

「美しい町があります。汚く陰気な地上の町とは違います。その中に特別に美しい町があります。町には劇場や娯楽場のような所もあります。地上の劇場で上演されているようなミュージカルを見ることもできます。ただし、それは地上のミュージカルよりずっと素晴らしいです」

### ●幽界での笑いとユーモアについて

「こちらの世界のすべての存在物には目的があります。意味なく存在しているものは1つとしてありません。もちろん私たちは笑うこともします。こちらにもコメディイヤーのようなものがあります。こちらにきたからといって、ユーモアのセンスを失うわけではありません」

### ●幽界の学校と博物館について

「私は、そちらにも学校のような所があると聞いておりますが……？」ウッズが質問した。

「こちらには大きな学校や博物館があって、そこではあらゆる国々や民族の歴史を学ぶことができます。そこにはないものはありません。すべてのものが揃っています」





●幽界での話・コミュニケーションについて

「あなた方は話をしますか？」

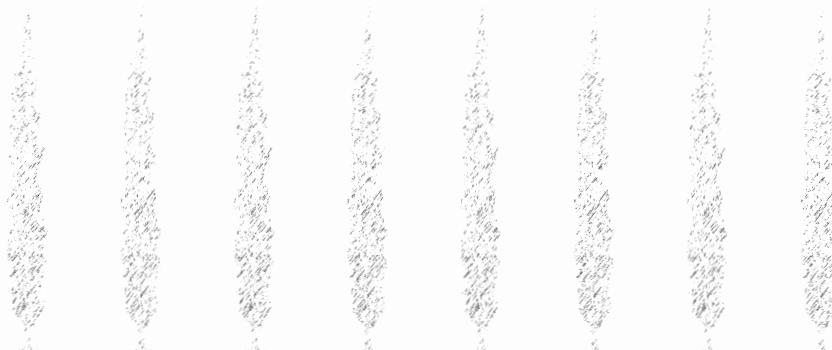
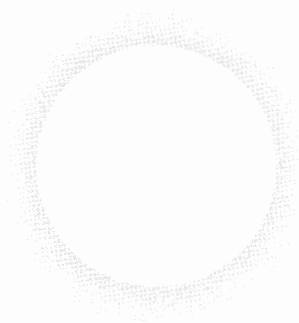
「すみません。もう一度言ってください」


「そちらの世界で、あなた方は話をしますか？」

「その必要はありません。しかし話そうと思えば話せます。それはその人の魂の発達いかんにかかっています。こちらでの生活が地上の時間にして数年もすれば、人は必ず成長するようになります。そして話すことは不必要であると、悟るようになります。こちらでは地上時代のように話をしなくても、自分の考えを伝えたり、相手の考えを受け取ったりすることができるのです。テレパシーのようなものです」

「高度なテレパシーですか？」

「そうです。私はまだあまり上手ではありませんが……。いつかもっと上手になりたいと思っています」





## <ローズの2回目の交霊会>

約10年の後（1963年9月9日）、彼女は約束を守って再び現れ、新しい生活について語り始めた。ローズは以前と比べ10年分の成長を遂げていて、彼女の新しい生活は10年前とは少々違っていった。

「ウッズさん、グリーンさん、こんにちは」

「こんにちは、ローズさん」グリーン女史は答えた。

「私の声が分かりましたか？ 長い間ご無沙汰しておりましたが……」

「すぐ、あなただと分かりましたよ」

### ●幽界での時間の過ごし方について

「あなたは今、そちらで何をしていますか？」とウッズが尋ねた。ローズが答えた。

「私はわずかな時間ですが、小さな子供たちと過ごしています。私は子供が大好きなのです。私は多少なりとも彼らの役に立っているようです。そしてなぜだか自分でも分からないのですが、そうした片手間に時々する仕事が好きなのです。」

こんなことを言うと馬鹿げて聞こえるでしょうが、私は部屋の中に座って針仕事をしたり、本を読んだりして静かに時間を過ごすのが好きなのです」

### ●幽界の住居について

「ローズさん、あなたは以前と同じ家に住んでいるのですか？」

「はい、そうです。そして私は今とても幸せです。私は特別どこかへ引っ越したいと思うようなことはありません。もちろんこちらの世界には、たえず前進し続けたいと思っている人々もいます。しかし今の私には全くその気がありません。」



でもそのうち、ここからどこかへ行くように言われるような気がします。私には、なぜそうしなければならないのか分かりませんが……。私は今のままでいいのです。私だけの素敵な小さな家があり、私の気に入ったすべてのものがあり、友だちもいます」

「あなたはどのような家に住んでいますか？」

「ごく普通の家です。きれいな小さな家で田舎にあります」

「私は生前ずっと、ロンドン郊外の田舎で生活したいと思っていました。私はいつも自分の小さな家が持てたらいいと思っていました。田舎に移り住んで、すべての喧噪から逃れた生活をしたいと思っていました。今、私は自分が願っていたような家を手に入れました。これ以上ほしいものはもうありません。」

でも私は、それはある点ではよいことではないと思っています。こちらの人々も、私にいつも“もっと意欲を持つべきだ”と言います。しかし私は、自分の小さな家にいるだけで本当に幸せなのです」





### ●幽界の花々について

「そちらには庭がありますか？ ローズさん」

「あります。そのお蔭で私は大地に親しむことができます。私は自分で花を育てます。しかし私は決してそれを摘みません」

「花を採らないのですか？」

「ええ、私は花々を自然の環境の中にそのままにしておきます。花の世話をしたり、花を眺めるだけで、私は最高の幸福感と喜びを感じます。こちらの花々は枯れることがないのです」

「花には生命があるのですか？」

「もちろんあります。活力と生命力が宿っています」

### ●幽界での住まいについて

「あなたの住まいはどのようなですか？ 説明してください」

「それは田舎の小さな場所にあります。4つの部屋があって私にとっては十分です。面白いことに、こちらにはチリもホコリもありません。それでぞうきんを持って掃除をする必要はないのです。いつもきれいなのです。」

私は本当にこちらの生活に満足しています。すべてのものを思いどおりに育てることができ、自分の思うことが何でもできるのです。そして誰もそれを妨げません。庭には鳥たちがやってきます。鳥たちは本当に人間に馴れています。誰も破壊行為をしようと思いません。ここは本当に素晴らしい所なのです」

「そうですね。本当に素晴らしい所ですね」

### ●幽界の海と湖について

「ローズさん、先回の最後の話の中で、あなたは海を見たことがないと言いました。今でも海を見たことがありますか？」

「見たことはありません。私は海を見たいと思いません」

「あなたは今でも湖へ行きますか？ たしかあなたは湖に行くと言っていたんですが」

「そこでボートに乗ると言っていたようですが……」とグリーン女史が促した。

「はい、湖へ行ったことがあります。私は湖が好きです。海は私の好みではありません」



### ●幽界の町について

「町に行きますか？ ローズさん、あなたはそちらに町があると言ったことがありますけど……」  
「たしかにあなた方が言うような大きな町や都市があります。しかし町の様子は地上とは全く違っていています。商店はありません。“人が集まっている”というところは同じですが、他の点では地上とは違っていています。もしあなたが多くの人々の中になりたいと思うなら、あなたは自動的に町に住むようになるでしょう」

「あなたの家の隣には、人が住んでいますか？」

「もちろん私の家の周りには人々が住んでいます。彼らは考え方が私ととても似ています。おそらくそれが、彼らと私がすぐ近くに住んでいる理由でしょう。時々、私たちは集まりを持ちます。私たちは私たちなりに幸せなのです」

### ●幽界での読書について

「私はリラックスして静かにしているときに、本当に好きなのです。私はこちらで本を読むことを覚えました。私は地上にいたとき、本が読めませんでした。私は字も覚えませんでしたし、自分の本も持っています。私に本を持ってきてくれる人がいるのです。私は時々、彼らに自分の本を貸してあげます。私たちは座って話をしたり本を読んだりします。

こんなことを言うとききっと驚かれるでしょうが、映画を見に行ったこともあるのですよ」

### ●幽界での映画鑑賞について

「そちらの映画について教えてください」

「地上世界にあるもので、面白いものはこちらの世界でも見ることができます。その映画には道徳的要素が含まれていて、とても面白く役に立ちます」

### ●幽界の野原と畑仕事について

「野原のような所がありますか？ そこは美しいですか？」

「とても素晴らしいです。本当に美しい緑の草が生えています。これもまた皆さんを驚かせるでしょうが、こちらの世界にはトウモロコシ畑もあります」

「あなたは畑仕事をするのですか？」

「はい、とても楽しい仕事です」





### ●幽界の季節と天気について

「ここには地上のような季節はありません。また雨が降るのを見たことがありません」

「雨が降らないのですか？」

「私は曇り空も見たことがありません。気温が暑すぎるということもありません。いつも快適なのです。ちょうど心地よく暖かいのです。また私は太陽を見たことがありません。こちらの世界の明るさと光は、太陽からくるものではありません。なぜならこちらには太陽はないからです」(\*先の交霊会では「太陽が輝いている」と言っていたが、霊的自覚の深まりにともない霊界の事実を理解できるようになり、「地上のような太陽はない」ということに気がつくようになったことが分かる。)

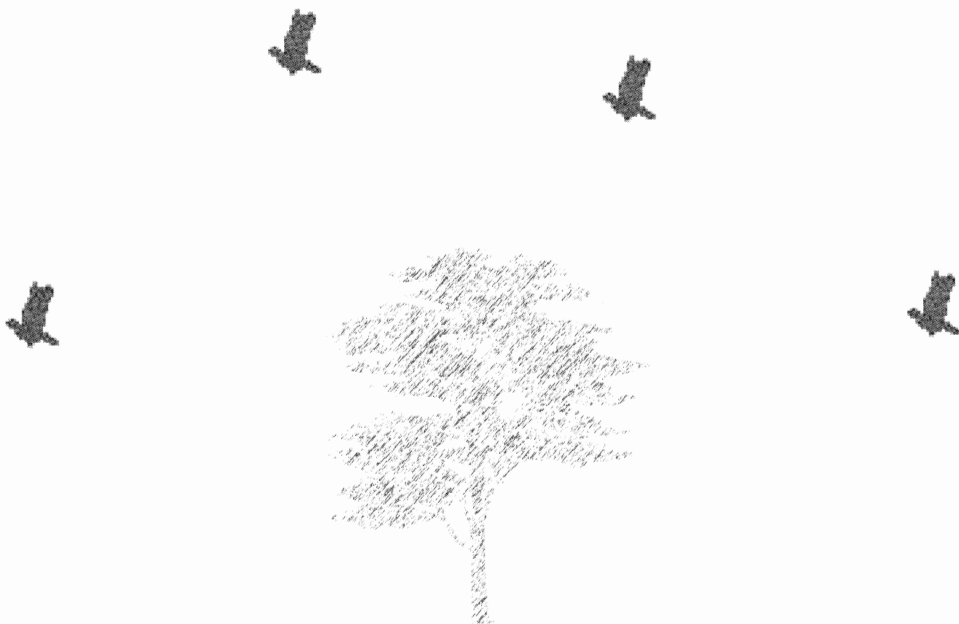
### ●幽界の芝生と花とトウモロコシについて

「ローズさん、そちらの芝生は地上のものと同じですか？ それとも、もっときめ細やかですか？」

「こちらの芝生は、とても踏み心地がいいです。とても細かく、美しい緑色をしています。私は背丈の高い花々が生えている所に行ったことがあります。その花々は背丈が7、8フィートもあるかというほどでした。まるで花の林の中を歩いているようでした」

「本当ですか！ ローズさん。そちらでは大きくなったトウモロコシを何に使うのですか？ トウモロコシを刈ったり、それで何かをつくったりするのですか？」

「いいえ、よく知りませんが、そのようなことはしないと思います。私は刈り取られたトウモロコシを見たことがありません。トウモロコシはいつも畑に植えられたままのようです」





### ●幽界での飲食について

「トウモロコシでつくられたパンはないのですか？」

「ありません。他に面白い話があります。こちらではもちろん食欲がわきません。最初こちらの世界にきたとき、私は食事をしました。食べたものはほとんどが果物でした。こちらではしばらくすると誰も食欲を感じなくなります。食べることがそれほど大切ではないことを悟るようになります。それから食べることをやめてしまいます。

しかし、私はお茶を飲むのが大好きな人間でした。そして今でも好んでお茶を飲んでいきます。皆さんは、どこからそのお茶を手に入れるのかと考えられるでしょう。どこからそのお茶はくるのだろうか、そのお茶は当然こちらの世界でつくられたに違いないと思っていらっしゃるでしょう」

「どのようにしてお茶を手に入れるのですか？ お茶を飲みたいと思うと、それが手に入るのですか？」とウッズは聞いた。

「不思議なことですが、私もよく分からないのです。台所へ行くわけでもなく、ヤカンを置くわけでもなく、自分でお茶を入れるわけでもありません。しかし私がお茶を飲みたいと思うと、すでにそれが目の前にあるのです」

「それは素晴らしいですね」

「地上人ばかりでなく、こちらにいる人でさえ言います。“それは実在物ではない。それはただ、あなたが必要だと思うから存在するようになるのだ”と。私はこれまでずっとお茶を飲み続けてきましたが、お茶を飲みたいという欲求を失ったとき、お茶は私の目の前から消え失せるでしょう」

### ●幽界の木と花について

「そちらには木とか花はありますか？」ウッズが質問した。

「こちらの木々はとても美しいです。そして花も同様です。とてもよい香りがします」

### ●幽界の音楽とコンサートについて

「そちらの世界には美しい音楽がありますね？」

「はい、あります。私は何度もコンサートに行きました。とても美しい音楽でした。こちらの音楽は気取ったようなところがなく本当に素晴らしいです。地上のジャズのようなくだらないものはありません。すべて心地よいものばかりです。私は地上にあるような宗教音楽は聴きません。それはいつも私の気を滅入らせるからです」





### ●幽界での服飾作業について

「ローズさん、あなたは以前、針仕事をすると仰いました。何かご自分の服をつくることがありますか？」グリーン女史が言った。

「はい、つくります。これまで数枚作りました。こちらにいる人が、私に材料を運んでくださるのです。その方はとても素敵な紳士で、私はその方とこちらにきてから知り合いました。彼は、ここよりも少し高い世界に住んでいらっしゃいます。そしてわざわざ、私やこの友人を訪問してくれるのです。

彼は、いつも何か持ってきてくれます。彼はとても心が広いのです。彼はつい最近、私に美しい布を持ってきてくれました。それは輝くような青色で、まさに私の好きな色でした。“これはあなたのために持ってきました。これで服をつくれれば、あなたはもっと素晴らしくなるでしょう”と、彼は言ってくれました」

### ●幽界の動物と昆虫について

「そちらの田舎には、何か動物がいますか？」

「もちろん野原には動物がいます。しかし怖くはありません。こちらでは動物はとてもおとなしいのです。そしてこれらの動物たちは人間に話しかけることができます。

私はヘビとかカエルのようなものはぞっとしますが、こちらではそうしたイヤな動物を見たことはありません。そうした生き物はとても低いバイブレーションの世界にいると聞きました。私はそれがどういう意味かよく分かりませんが、気味の悪い動物は、私のいる世界にはいないことは確かです。またブヨとかハエのようなものも見たことはありません。しかし面白いことに、私は蝶は見たことがあります」

「そちらの蝶はきっと美しいでしょうね」



「とても美しいです。そして死ぬこともありません。おかしく思われるかもしれませんが、こちらには地上のような死はありません。何ものも死ぬことがないのです」

### ●幽界での死について

「私は最初こちらの世界にきて落ち着くと、“ここでの生命はどのくらい続くのかしら”と思いました。“これまでとは別の生命なのかしら、また以前のような生命を持ち再び死ぬことになるのかしら、ここでの生命以上のものがあるのかしら”などと考えました。

しかし、ここでは死ぬことはないのです。それはこれまでの常識では全く考えられないことです。人はこちらにくると、しばらく同じ状態の生活を続けるようです。やがてその生活に退屈するようになります。そうでないとしたら、ここでのすべてのことを知り尽くしてしまったと思うようになります。するとある種の眠りのような状態に入っていきます。それから別の世界に行くのです」





### ●幽界の馬と乗馬について

「そちらには馬がいますか？」とウッズは尋ねた。それは以前の彼女の好きなテーマだったからである。

「います。とても美しい馬がいます」

「あなたは馬に乗りますか？」

「いいえ、乗りません。私は遠くから馬の姿を見るのが好きなのです。馬が怖くて乗らないのではありません」

### ●幽界の町の施設について

「そちらの町はどのようなですか？」

「美しいの一言です。私は町には住んだことはありません。しかし町はとても美しいです。庭園と公園と子供たちの遊び場は特に美しいです。建物は大きく、そこで人々は学んだりします。図書館もあります。娯楽のための建物もあります。それらはすべて素晴らしく、何ひとつ下品で不快なものはありません。本当に素晴らしく上品なものばかりです。そしてとても美しいのです」

### ●幽界での観劇と芸術鑑賞について

「私は1、2度、劇場へ行ったことがあります。そこで多くの有名人と会いました。地上時代には、私はその人たちの舞台を見に足を運んだことはありませんでした。また何回か、美術館に行って、昔の有名な画家の作品を見たことがあります。地上時代の有名な画家は、こちらにきても引き続き同じ仕事をしています」

### ●幽界の町の色彩と建物について

「町はカラフル（色とりどり）ですか？」

「はい、町はカラフルというより美しいと言った方がいいでしょう。もちろんカラフルという言葉の意味次第ですが。建物や家々がすべて赤や白や青色で塗られているということではありません」



「建物の形式や様式はどうですか？」

「いろいろな形の建物があります。またあらゆる建築様式の建物があります」

「そちらでは石はどのように見えますか？」

「私にはこちらの石はまるで真珠のように見えます。どうしてかは分かりませんが……」

「すてき！」とグリーン女史が声をあげた。







### ●幽界の道路の舗装と乗り物について

「歩道のことを何と呼びますか？ 地上と同じような石で舗装されているのですか？」

「石のようなものです。それが石なのかどうか分かりません。もちろん他のものもあるでしょう。こちらの世界には乗り物はありません。車やオートバイのような乗り物に乗ることはありません。ここの人たちはみな楽しんで歩いています。誰も乗り物に乗りませんし、その必要がありません。歩くことには何の努力もいりません」

「もし遠くへ行きたいときは、思念によって行くのですね？ ローズさん」

「正確には、思念によるものかどうか知りません。ある所へ行きたいと軽く思うだけです。それだけで、そこにいるのです。何の努力もいりません」

### ●幽界の森と木について

「そちらには森がありますか？ それは美しいですか？」

「あなたが言うようなものがこちらにあるといいですね」

「私は森や木のことを言っていますが……」

「分かっています。ちょっとふざけただけです。もちろんこちらには美しい森があります。とても素晴らしい森です」

### ●幽界での死に対する意識について

「こちらでは誰も死を恐れませんが、死はすべての人々にとって待ち望むような出来事ですし、誰もがそのことに気がつくようになります。ただし、もし心の中に、または過去に、他人に知られては困るようなことがないならばの話ですが……。もちろん誰にでも多少の秘密はあるものですが、普通の人ならば、死んでこちらにくることを何も心配する必要はありません」



# スピリチュアリズムから見た“オーラの泉”

## ニセ霊能者によるペテンの現場の実況放送

### これまでの度々の警告

ニューズレターでは、これまで何度か江原氏に対して警告を発してきました。江原氏が現在のような有名人になる以前から、本人に分かるように間違いを指摘してきました。それはスピリチュアリズムを私利私欲の追求のための手段として利用して、スピリチュアリズムの権威を汚してほしくないとの思いからでした。

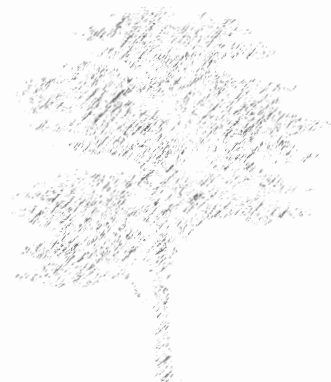
残念ながらそうしたこれまでの警告はすべて無視され、結果的には江原氏の良心には全く届かなかったようです。

### 罪を憎んで人を憎まず

私たちはスピリチュアリズムが大きく発展し、それによって地球人類が本当の幸せを手にしてほしいと願っています。スピリチュアリズムは人類にとって「最高の霊的宝」であり、まさに聖域として最も大切に扱わなければならないものと考えています。そのスピリチュアリズムを、人間の手垢で汚すようなことがあってはなりません。私たちが江原氏に対して批判をしてきたのはそのためであり、それ以外の意図は何もありません。私たちには、江原氏に対する悪意などの個人的感情は一切ありません。なぜならどれほど不正を行い人々を騙すような悪事を繰り返す人間であっても、神の子供であることには変わらないからです。また摂理の支配する世界の中で、悪の報いを逃れることは決してできないことを確信しているからです。

私たちは、スピリチュアリズムが正しく知れわたり、その実践を通じて地球人類が真の幸福に至るようになることにしか関心はありません。江原氏に対しては「罪を憎んで人を憎まず」といった姿勢で常

に臨むように心がけていますし、今後もそのようにしていくつもりです。江原氏がスピリチュアリズムと出会いながらもこの世の人々にも劣る悪事を平気で行っていること、欲望におぼれてこの世の富と名声を追求している姿を見て、私たちは心から同情しています。江原氏が霊界に行ってからのことを考えると、何と哀れな人間であることかと思わずにはいられないのです。



## スピリチュアリズムの権威を失墜させる不正と闘うことは、スピリチュアリストの使命

とは言ってもスピリチュアリズムの権威を不正によって失わせ、私利私欲のために霊界人の献身的・犠牲的行為を裏切るような在り方を、ただ黙って見過ごしてはならないと思います。江原氏がスピリチュアリズムを利用して人々を騙し、自己の名声の追求に奔走している現状に警告を發し、人々に注意を促し、江原氏の行っていることがスピリチュアリズムとは全く関係のない単なる個人的な悪事であることを明らかにしておかなければなりません。それがスピリチュアリストとしての使命であると考えます。

相手が間違っていることが分かっているが、論争を避けて大人しく引っ込んだり、妥協したり、口先をごまかしたりすることなく、いかなる犠牲を払っても真理は真理として守り抜くという覚悟ができていないといけません。

(最高の福音・254)

スピリチュアリズムがニセの行為によって汚されないように守ることは、スピリチュアリストとしての当たり前の責任であると考えます。そうした意味から、今回は「オーラの泉」に対するスピリチュアリズムからの見解を示し、人々がこれ以上“ニセ霊能者”に騙されることがないように注意を促したいと思います。

## 的外れなこれまでの江原批判

スピリチュアリズムから見たとき、江原氏の「オーラの泉」における言動の不正は明らかです。霊的知識を知らない一般の人々には全く分からない江原氏の不正・詐欺的言動は、スピリチュアリズムの「霊的真理」と照らしたとき明白に浮き彫りにされます。とは言っても熱心なシルバーバーチファンが必ずしも霊的真理を正しく理解しているわけではなく、こうした場合、巧妙な嘘（ウソ）を見抜くことはできません。

江原氏のテレビ出演が重なり有名になるにともない、至るところで江原氏に対するバッシングが始まりました。そうした批判は、事実その通りだと言えるものから、全く的外れなものまでさまざまです。これまで江原氏に対して、心理学者や脳科学者・宗教者などから批判がなされてきました。しかしスピリチュアリズムから見たとき、そのほとんどが江原氏の不正の事実をずばりと指摘してはいません。なかにはあまりに的外れで滑稽な批判内容もあり、思わず苦笑してしまうこともあります。大半の批判者が、江原氏の前世の指摘や透視・霊界からのメッセージに対して、直接的な見解を示すことを避けています。その一方で、ある脳科学者は、江原氏の透視は脳内の現象としての主観的観念であると述べています。また別の科学者は、江原氏は自らを催眠にかけて幻想を見ていると述べています。またある心理学者は、江原氏のスピリチュアル・ブームは、現代人が癒しを求めるところから生じている社会現象であると述べています。

しかし、これらはどれも江原氏の言動の本質をついたものではありません。全くとは言えないまでも、かなりの的外れな見解と言わざるをえません。



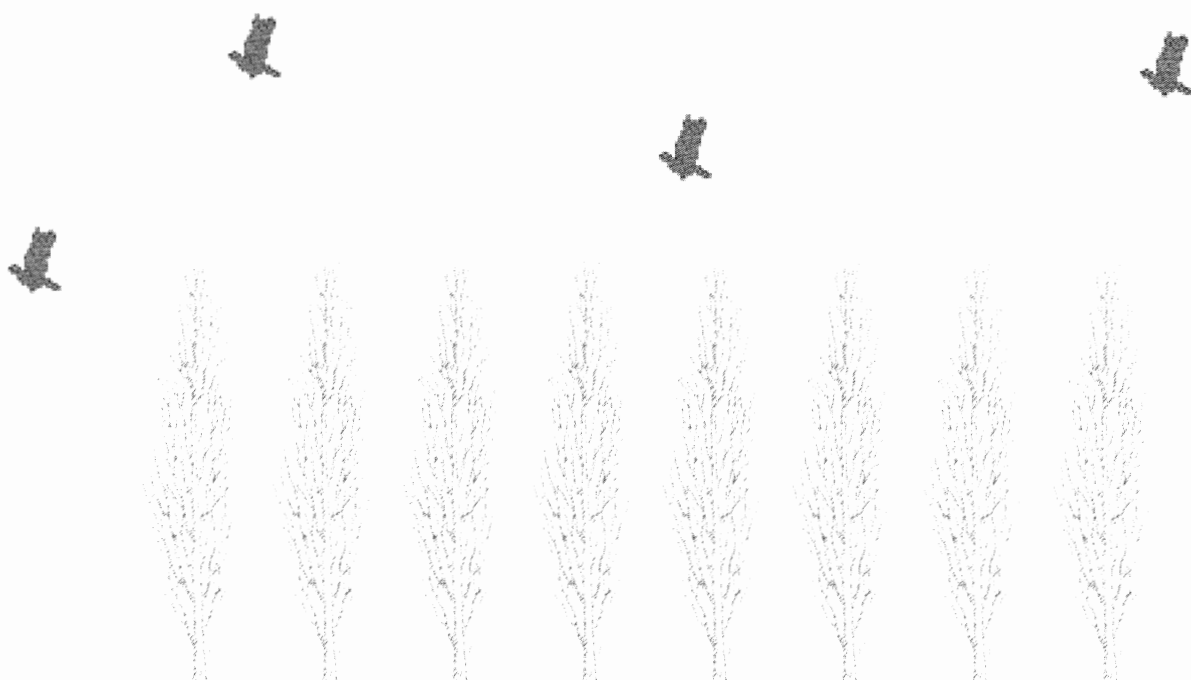
## オーラの泉の前世の指摘は、すべて作り話 ——スピリチュアリズムの見解

霊的事実に立脚したスピリチュアリズムの見解を述べるならば、江原氏がオーラの泉で指摘してきた前世像は、すべて作り話以外の何ものでもないということです。ゲストの前世や守護霊を江原氏がずばりと指摘するのがオーラの泉の売りであり、それに多くの人々が惹きつけられてきました。しかし実は、そのすべてが初めから作り話でありウソだったので。以上が「スピリチュアリズムの見解」です。江原氏は、ただ単に作り話をしてきただけなのです。脳内での現象であるとか自己催眠がどうのこうのといった問題ではありません。江原氏がオーラの泉の中で指摘してきた何十人もの芸能人やスポーツ選手の前世は、すべて“ニセモノ”なのです。

江原氏のウソをベースとして、テレビ局（\*特にテレビ朝日とフジテレビ）や週刊誌などが自分たちの利益のために作り上げてきたのが偽りの“スピリチュアル・ブーム”だったのです。癒しを求める現代人の心が、こうしたブームをつくったのではありません。人々の軽々しい好奇心がテレビや週刊誌や出版書によってかき立てられた結果、巻き起こったものなのです。

## オーラの泉は、ニセ霊能者とテレビ局による ペテンの現場の実況放送

オーラの泉という番組をスピリチュアリズムの観点から言うならば——「ニセ霊能者によるペテンの現場の実況放送」ということになります。“ペテン”とは、ウソを本当のように信じ込ませて人々を騙して利益を得ることです。オーラの泉は、まさにこのペテンという“人騙し”の現場を、そのままテレビで大衆の前に放送している番組なのです。言うまでもなくペテンを行っている人間とは江原氏であり、同時に一緒になって視聴者を騙しているテレビ局です。江原氏を視聴率稼ぎのために利用するテレビ局は、彼の不正を知らず隠れたところで情報集めをするなど、共謀してヤラセ詐欺を行ってきました。（\*フジテレビの「こたえてちょ〜だい！」（2007年3月終了）では、製作スタッフが事前調査をして、それに基づいてヤラセをしていたことが暴露されています。これは「あるある」と同様の不正を行ってきたということです。この件については次回のニュースレターで取り上げます。）



テレビ局は視聴率稼ぎのために、堂々と国民を騙しペテンを働いてきました。そして、こうしたペテンによって多くの国民が見事に騙されてきました。「オーラの泉」や「天国からの手紙」によって巻き起こった感のある“スピリチュアル・ブーム”あるいは“前世ブーム”なるものは、ニセ霊能者とテレビ局や出版社によって作り出された流行に他なりません。しかし時間の経過とともに今後、これまでテレビ局によって行われてきたヤラセの実態が徐々に暴露され、明るみに出ようになっていくことでしょう。「オーラの泉」や「天国からの手紙」をはじめとする江原氏出演のテレビ番組のすべてが、江原氏のペテンの記録となりペテンの証拠となるのです。（\*いずれ「オーラの泉」を検証して、江原氏の言動の不正を一つ一つ明らかにしていきたいと思っています。江原氏は、これからのニセ霊能者を知るうえでの格好の材料を提供しています。スピリチュアリズムを利用して人々を騙すニセ霊能者の実態を明らかにする、よい教材となります。）

## スピリチュアリズムが暴く 江原氏の騙しの手口

ここまでオーラの泉を“ペテン”と断言することができるのは、スピリチュアリズムの「霊的真理」があればこそなのです。江原氏は自分の不正の隠れ蓑<sup>みの</sup>として、あるいは自分の人気取りのためにスピリチュアリズムを利用してきましたが、今後はそのスピリチュアリズムが、江原氏の不正の手口や人騙しの実態を明らかにしていくこととなります。

オーラの泉批判の一番肝心で核心的な部分とは——「江原氏の指摘する前世が本当かどうか？」という一点にかかってきます。唯物論者なら、初めから“前世などあるわけがない”と決めつけますから騙されることはありません。しかし大半の視聴者は善良で純情であり、同時に霊的な事柄に強い関心を持っています。人々は自分の前世や背後霊・あの世にいる知人からのメッセージ・未来の運命に心を惹かれ、できることなら自分の前世や守護霊を知りたいと思っています。多くの日本人がオーラの泉などの心霊番組に関心を寄せ、これが心霊番組の視聴率を上げることになっています。初めから否定的な気持で心霊番組を見る人はいません。



こうした状況下であって、前世をスパッと指摘し、同時にこれまで聞いたことのない専門的な心靈知識を語り、親切に身の上話に耳を傾ける江原氏の姿を見て、誰もが江原氏は何と素晴らしい霊能者、他の霊能者とは次元が違う優れた霊能者であると思うようになりました。また語る専門知識の豊富さから、江原氏は本当に深い知識を備えた卓越した霊能者であると考えようになりました。常にこやかに同情心をもって語る様子から、他にはない立派な人格と人間性を持った良心的で誠実な霊能者であると思えるようになったのです。

人々はそうした江原氏が、意図的にウソをついて人々を騙そうとしているなどとは夢にも思いません。しかし実は、今あげたようなこの世の人々の評価を得ることが、江原氏の常に目指してきたことだったのでした。

### テレビ局のひどい無責任さ

江原氏の語る専門的な心靈知識を聞いて、視聴者の多くが、江原氏を本物の霊能者であると思うようになりました。そして江原氏の指摘する前世や背後霊は、間違いなく本当なのだ信じ込むようになりました。江原氏の姿を見ている人々の目には、スピリチュアリズムは簡単に前世を教えてくれるものであるかのように映ったかもしれません。

「あるある」の事件後、テレビ朝日では番組の終わりに、「前世や守護霊は科学的に証明されたものではありません」とのテロップを流すようになりました。「番組の内容をそのまま信じないでください」という意味合いのテロップを流すことで、責任逃れを図ろうとしている見え透いた姿勢は、あまりにも不誠実で偽善的です。テレビ局内部にも、このまま番組を続けるのは危ないとの危惧があり、逃げを打ったつもりでいるのでしょう。

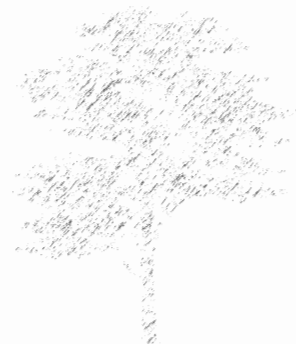
江原氏の言うことがウソであるなら、あるいは事実でない可能性があるとするなら、また国民のことを考えるなら、即座に番組をやめるべきなのです。それがテレビ局としての当たり前の良心というものです。商業主義まみれで、自分たちの利益のことし

か頭のないテレビ局のエゴ的な体質が、こうしたところにもよく現れています。このようなテレビ局には、公的な責任感も公共性のひとかけらもありません。

### 悪いのは騙される人間ではなく、騙す人間とテレビ局

いったん江原氏のウソにはまった人間には、その不正を見破ることは、もはやできなくなります。専門知識を持った人間が巧妙なウソについて相手を騙そうとするとき、専門知識の全くない人間がその詐欺を見破ることは不可能です。ペテン師以上の知識があつて、初めてペテン師の騙しの手口を見破ることができるようになるものです。その意味で人々が、善良さゆえに江原氏を信用し騙されたとしても仕方がないと言えます。現に多くの知識人や作家・良識者までもが、江原氏のウソを見抜くことができず、いいように利用されてきました。

詐欺事件が発覚するたびに出される批判が、騙される側の人間にも責任と非があるというものです。しかし非難されるべきは意図的に騙す側の人間であつて、騙される側ではありません。詐欺に引っかかるのは騙される人間に知恵がなく、低俗な好奇心があるからだという意見には一理ありますが、決定的な責任は意図的に騙そうとする側にあります。ニセ霊能者と、それを承知で視聴率稼ぎのためだけに江原氏を利用しているテレビ局側にあることは明白です。



## 現在の地上人には、前世は知られないようになっていく

オーラの泉を批判する際に、最も重要な点は、江原氏の前世の指摘はすべてウソであり作り話であるということです。善良な視聴者は、江原氏が初めから人々を騙す目的でウソをついているとは到底信じられません。しかしスピリチュアリズムの「霊的真理」と照らしたとき、「江原氏の前世の指摘はすべてウソである」というのが結論なのです。江原氏がこれまで“スピリチュアリズム”を名乗ってきた以上、スピリチュアリズムサイドから出されたこの指摘に対して、彼ははっきりとした説明と釈明をしなければなりません。

では当の江原氏は、前世の身元について何と語っているのでしょうか。毎週テレビでゲストの前世を指摘していることからすれば、当然「前世は地上人にも分かるものである」という結論になるはずですが。江原氏は『本音発言』の中で、「前世はパッと映像として見えるだけだからです」(89頁)と説明しています。実はこの説明も、それらしく見せるためにつくり上げたウソです。

その一方で江原氏は、地上人には前世を知ることができない、それは忘れなければならない意味があるからだと言っています——「そのとき(受精のとき)私たちは、自分の前世や、この世に生まれ出るたましいの目的、そうした一切の記憶を失います。どうして記憶を失うかという、忘れなければならない意味があるのです。実はそこがポイントです。覚えているままだと、私がよく言うところの“大根役者”になってしまうのです。生まれてきたときに自分の前世や学びの目的を全部覚えていたら、今生での体験の一つ一つを新鮮な気持ちで味わうことはできません。」(『苦難の乗り越え方』19~20頁)

この答えは、まさにスピリチュアリズムの真理にそった正しい見解です。スピリチュアリズムでは、「地上人には前世を知ることができない」として語ります。それが地上人の霊的成長にとって、最もふさわしいことであるからです。

それなのに毎週テレビで他人の前世を次々と指摘

し続けているのは、一体どういうことでしょうか。江原氏は、片方では「前世は分からない方がその人のためである」と断言しながら、毎週のように他人の前世を指摘し教えているのです。この点だけをとり、江原氏の言動には大きな矛盾があります。まさにこれこそがペテンの手口のほころびなのです。“ボロを出している”ということなのです。

## 地上のいかなる霊能者も、他人の前世を知ることはできない

凡人には自分の前世を知ることができないけれど、優れた霊能者なら他人の前世を知ることができるのでしょうか。江原氏という特別優れた霊能者(?)には、一般の人では分からない前世を例外的に知ることができるということなのでしょうか。この質問に対するスピリチュアリズムの答えは“NO”です。スピリチュアリズムからすれば——「現在の地上人には過去世・前世は分からないようになっていく。それは本人自身は言うまでもなく霊能者といった第三者においてもそうである」ということなのです。



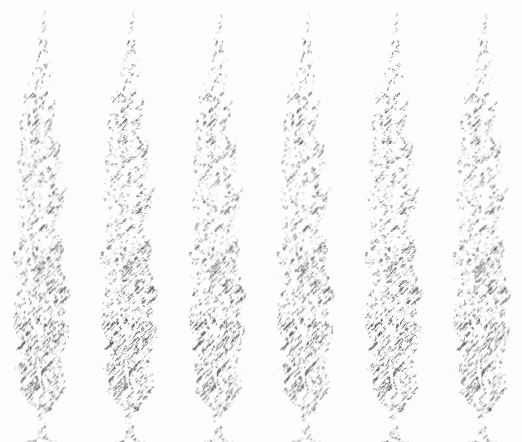
スピリチュアリズムでは、現段階の地上人類の霊性レベルでは前世を知ることができないことを明らかにしています。そこに神の配慮があり、摂理の働きがあるのです。また他の人間を通して、安易に前世が分かるというようなことも否定しています。当然、江原氏のような自制心がなく自己コントロールのきかない霊能者が、他人の前世を指摘するようなことは決してできるものではありません。前世は、本人の潜在意識の最も深い記憶庫の中を覗き見することであるため、イエスのようなきわだって霊性の優れた人間でないかぎりではできません。まして第三者（霊能者）が、他人の前世を知ることなど到底無理なのです。したがって現在の地上人の前世は、現実には霊界サイドの人間（霊）を通じてしか明らかにされる方法はないということになります。いかに優れた霊能者といえども他人の前世を直接知ることはできないのです。

一方、霊界人が地上人の前世を明らかにするには、相当な理由がないかぎり許可されることはありません。他人の前世を明かすことは、高級霊界から厳しくコントロールされている事項なのです。したがって霊であっても、安易に地上人の前世を教えることはできないようになっています。もし手軽に地上人の前世を指摘する霊がいるとするなら、そ

れは地上人を騙そうとする低級霊以外にはありません。もし他人の前世を軽々しく指摘する霊能者がいるとするなら、それはそうした低級霊の言葉をまともに信じ込んで騙されているか、霊能者自身がわざとウソをついているということしかあり得ません。江原氏が「オーラの泉」やカウンセリングで、次々と前世を指摘しているという事実は、それがすべて作り話か低級霊のウソであるということをお話しています。

前世の身元の問題については、すでにニューズレターでも見てきましたが、これからも機会をつくらせて取り上げていくことにします。また今後開設する予定の「第3ホームページ」でも、詳しく取り上げていくことにします。その際には、江原氏への質問と合わせて詳細な検証内容も示していくつもりです。

いずれにしても江原氏が、テレビやカウンセリングなどで安易に他人の前世を指摘しているのは、スピリチュアリズムからすれば明らかに「不正を犯している。ウソをついている」ということなのです。最近になって、これまでの口からでませのニセの前世に対して、多くの人々から内容の矛盾と不自然さが指摘されるようになってきました。





## もはや逃れられない江原氏の立場

もし江原氏がスピリチュアリズムとは無関係な人間であるなら、こうしたスピリチュアリズムサイドからの指摘に対しても、「自分はスピリチュアリズムとは関係ない。それはスピリチュアリズムとしての見解にすぎない」と言って無視することもできるでしょう。しかし江原氏は、自らスピリチュアリズム研究所を開設し、テレビでも書籍でも自分がスピリチュアリズムの立場にあることを明らかにしています。江原氏はスピリチュアリズムという土俵の上で心霊現象を論じ、人生相談に乗っているのです。江原氏の言説の基本は、スピリチュアリズムそのものであり、テレビや書籍で述べている内容は、スピリチュアリズムから取り入れた知識に他なりません。

江原氏は『本音発言』の中で——「私を批判したいのなら、まずはこの本の第2章を読んで“スピリチュアリズム”をご理解いただきたいと思います。その上で矛盾を感じることもあるならば、どうぞ真摯な態度でぶつけてきてください。私は逃げも隠れもしません。一つ一つの誤解を丁寧に解いていく覚悟です」(99頁)と述べています。私たちはこの言葉を待っていました。なぜなら江原氏と“スピリチュアリズム”という同じ土俵の上で、スピリチュアリズムを共通の基準として堂々と議論できるからです。スピリチュアリズムによって示された「霊的真理」が、私たちと江原氏の共通の土俵です。したがってそれを判断の根拠として、江原氏の行為についての真偽を明確にすることができるようになるのです。

私たちは、一人でも多くの方々がスピリチュアリズムを正しく理解し、真の幸福を手にしてくださることを願ってきました。スピリチュアリズムを伝えるにおいては、決してそれを人間の手垢で汚すようなことがあってはならない、まかり間違ってもそれを私利私欲のために利用するようなことがあってはならないと考えてきました。そうした私たちが、江原氏の出版本やテレビでの発言を聞けば聞くほど、ますます疑問だらけになってしまいます。江原氏が

本当にスピリチュアリズムの発展を願い、本当に人々の幸せを願うのなら、ご自分の発言どおりに、私たちの質問に誠意を持って答えてもらいたと思います。そして、それを公表することに同意していただきたいと思います。

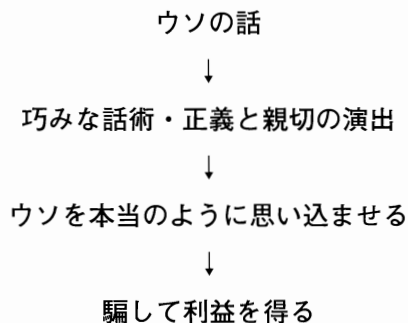
## スピリチュアリズムから見たオーラの泉の本質——ペテン師による“人騙し”

オーラの泉の本質を見抜くには、江原氏の前世の指摘がすべて作り話であるということを押えておくことが大前提となります。この点を押えていないと、結局は的外れな批判をすることになってしまいます。スピリチュアリズム（霊的真理）を知らない一般の人には、まずこの点で明確な判断ができません。江原氏の言っている内容がウソか本当かの判断ができません。霊的真理を持たない人間が、霊的世界について語られる内容の真偽を見極めることは無理なのです。また、ただ単に“シルバーバーチが好きだ”といった程度の認識では、ニセ霊能者の不正を見破ることはできません。ましてや自分自身がそれ（前世）を知りたいと思っているような人の場合には、なおさらウソを見抜くことはできません。



スピリチュアリズムから見れば「オーラの泉」は、ペテン以外の何ものでもありません。この世のペテン師が善良な人々を騙して利益を得ることと何ひとつ変わりありません。江原氏というニセ霊能者とテレビ局が共謀して国民を騙している、そしてテレビ局は視聴率を稼ぎ、江原氏は名声・人気を得る——これが“スピリチュアリズム”から見たオーラの泉の実態です。

ペテン・詐欺とは、「ウソの話（作り話）」を「巧みな言葉や正義心・親切心の演出」によって「相手に信用させ」、「騙して利益を得る」ということです。この世の悪徳セールスマンが一人暮らしの老人を騙して契約させ、大金を巻き上げるといった事件がしばしば起こりますが、オーラの泉も本質的にはこの悪徳セールスマンによる詐欺と同様のことなのです。



### 専門的な心霊知識を語っての“嘘隠し” ——江原氏の騙しの手口

オーラの泉が、いかがわしさを感じさせながらも高視聴率を上げているのは、江原氏の不正が一般の人々には分かりにくくなっているからです。それどころかテレビを見ている多くの人々は、江原氏の語る人生訓や霊現象についての説明に感動しています。江原氏がテレビの中で語るうまい言葉や説明は、実はこの世のペテン師が、相手の全く知らない専門用語や専門知識を持ち出して、自分をさも本物らしく見せようとするのと同じことなのです。

人間は自分の知らない専門知識を自信を持って次々と語られると、それだけですごい人間だと思う

ようになります。しかも相手がそれを誠実そうに話すことで、話の内容のすべてを真実のように感じてしまうのです。また親切で思いやりがあるような口ぶりによってますます本物だと信じ込み、「こんな誠実な人が、ウソをついて自分を騙そうとするはずがない」と考えるようになります。こうしてウソの話のすべてが、真実のように受け入れられることになります。

人々は、これまで誰からも聞いたことのない心霊知識を次々と語る江原氏の姿を見て、すごい霊能者、今までに出会ったことのない最高の霊能者だと思うようになります。見るからに誠実で謙虚そうで、思いやりがあるにこやかな人間が、まさかウソをついているなどとは、とても考えることができません。さらに世間では、江原氏は優れた霊能者であるとの噂が広まっています。それが江原氏に対する信頼度を、ますます高めることになります。こうして前世の指摘・背後霊の指摘・あの世からのメッセージ・オーラの指摘が、すべて本当だと信じ込まれるようになるのです。



この世のペテン師は人の知らない専門用語や専門知識をかざして本物らしく見せようとしませんが、ニセ霊能者も霊的知識をかざして本物らしく見せようとしします。そして著名人の名前を意図的に持ち出しその権威を利用して、自分の行為や見解の正当性を強調するのです。スピリチュアリズムの霊的知識を正しく理解している人には、江原氏の語る内容は決して特別なものではありません。この世の大半の人々にとっては初めて耳にする素晴らしい内容も、スピリチュアリズムでは常識と言うべきものばかりです。江原氏はスピリチュアリズムの霊的知識が、他の宗教や霊能者を寄せ付けない強力なものであることを十分に知ったうえで、スピリチュアリズムの知識を自己の名声のために利用しているのです。

人々を騙して信用させるには、素晴らしい霊的知識を語ることが最も効果的です。それはスピリチュアリズムを自分の私利私欲のために利用する、“人騙し”のために利用するということです。スピリチュアリズムの霊的知識を、自分を信用させるための手段に使うということです。そしてこの目的のために江原氏は、テレビで霊的真理を語り、出版物で霊的知識を書いてきたのです。

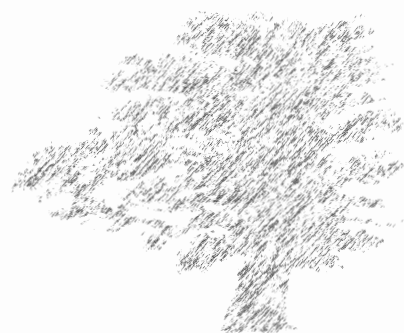
### ウソと本物を織り交ぜての巧みな言い方

しかも江原氏は、スピリチュアリズムの霊的知識だけでなく、そこに自分なりの考えを合わせて語り、いっそう本物らしく見せようとしています。時にはスピリチュアリズムの知識とは反する内容を、さも本物らしく並べ立てます。人々の受けがいいような内容をわざと真理の中にもぐり込ませていきます。このように江原氏の語る話には、常にウソと本物（スピリチュアリズムの霊的知識）が適当に織り交ぜられています。本物は少しあれば十分です。スピリチュアリズムの霊的知識は威力があるので、それだけで周りを圧倒することができます。江原氏の語る内容のウソと本当の見分けは、スピリチュアリズムの霊的真理を知っているスピリチュアリスト以外にはできません。（\*江原氏の話のウソと本物については、いずれ別の機会に取り上げることにします。江原氏には、その

質問のすべてに対する誠実な回答を期待したいと思います。）

要するに江原氏は自分を本物らしく見せるために、スピリチュアリズムの霊的真理を利用するだけでなく、人々の歡心を買うような内容を意図的にもぐり込ませて人々を騙そうとしているのです。ペテン師が、自分を本物のセールスマンであると信用させるためにするのと同じことをしているのです。江原氏の話には、ウソと本物（スピリチュアリズムの霊的真理）が織り交ぜられています。それはウソの話を、本物らしく見せかけるためです。

ウソの話の実例の一つが、次に述べる「霊能者撲滅」という主張であり、「間違った霊能者の見分け方」（『天国への手紙』242頁）です。ドリス・ストークの書籍出版も、自分を正当な霊能者であると信じ込ませようとの魂胆から出発したものですが、これについては別の機会に取り上げることにします。ここでは江原氏の「霊能者撲滅」というウソの話を見ていきます。



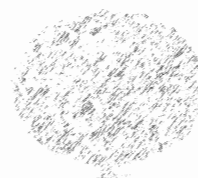
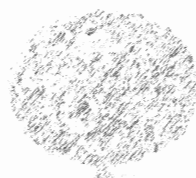
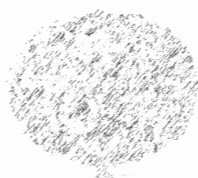
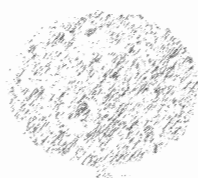
## 「霊能者撲滅」という偽りの正義と善人のポーズ ——ペテンの一つの手口

この世のペテン師は、ことさら正義と親切心を相手に示して信用させようとします。正義心のある人間、思いやりのある親切で愛のある人間と思わせることが、人を騙す最も効果的な方法であることをペテン師はよく知っています。そしてわざわざ「最近ではニセの業者が横行して人々を騙しているので注意してください。せっかく苦労して貯めたお金を騙し取られたらたいへんです。おばあさんにはそんなことで苦しめられるようになってほしくない」と言って他の偽セールスマンを声高に非難することで、自分が本物の業者であると信じ込ませようとします。心の底から相手の幸福を願っているかのような印象を与えようとします。これは人間心理の弱みに付け込んだ実に悪質な人騙しですが、ペテン師はたえずこうした手口を用いて人々を騙し続けています。寂しい心・孤独感に付け込み、人々を欺き続けています。

さて、ニセ霊能者も同じようなことをします。江原氏は、「霊能者撲滅」を声高々と主張しています。女性週刊誌の中で江原氏は——「僕は書籍でも霊能

者撲滅と言っています。それは多くの人が霊的真理を理解し、自分のことを自分で解決できればいずれ霊能者が要らなくなるという意味。だから霊的真理がなかなか理解されない今は、まだ撲滅できないでしょうね」と述べています。霊能者の口から「霊能者など本来は要らない」という言葉を聞けば、大半の人々は、江原氏は何と謙虚な霊能者なのか、まさしく正義心を持った霊能者であると思うようになります。ニセモノを見抜いてこれをなくし、人々を救おうとしている正義の霊能者だと思い込むことでしょう。そしてまさかこうした人間が、ニセの霊能力をかざして人々を騙すようなことをするはずがない、江原氏は他の一般の霊能者とは格が違う霊能者だと考えるようになります。実はこれが江原氏の目的であり、「霊能者撲滅」は、意図的に計算した上での発言だったのです。まさに自分だけが本物で、自分以外の霊能者はニセモノと言わんばかりの主張です。

しかし、この江原氏のニセの正義も、スピリチュアリズムの「霊的真理」に照らしてみればウソは明白です。たしかにスピリチュアリズムはニセ霊能者を撲滅することを一つの活動内容としていますが、



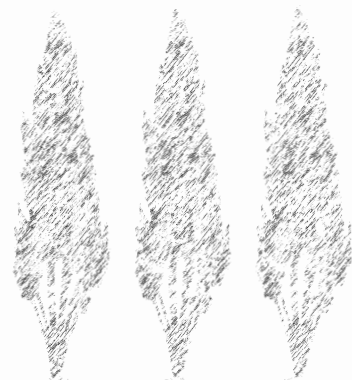
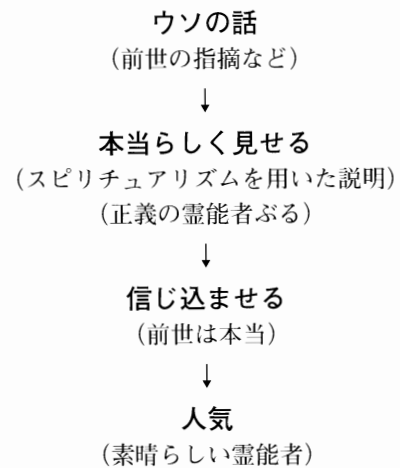
“靈的真理が広まれば靈能者がいなくなる”というようにことにはなりません。スピリチュアリズムは、靈能者それ自体を撲滅しようとはしていません。それどころか今後、人類全体の靈性が高まるようになるにともない、今は一部の人間にのみ発現している靈能力が、ごく一般的なものとなり、多くの人々が靈能者となっていきます。そして靈界と地上界が今よりずっと身近な関係になり、そのときには死後の世界や死者との交流はごく当たり前のものになります。したがって靈的真理が普及すれば靈能者は撲滅されるどころか、ますます増えていくこととなります。靈的摂理の働きによって、そのようになっていくのです。江原氏に感動を与えたシルバーパーチが——「もっともっと多くの靈媒がほしいのです。いくらでも多すぎるといことはありません」(道しるべ・113頁)と言っているのを思い出すべきです。

スピリチュアリズムが排除しようとしているのは、江原氏のような“ニセ靈能者”だけなのです。もし本当に江原氏が「靈能者撲滅」を正当な方向性であると考えているのなら、今即刻、江原氏自身がやめるべきなのです。江原氏自身がニセ靈能者をやめて、純粹に靈的真理の普及に人生を懸ければいいだけのことなのです。

ここでも一番の問題は、本当に江原氏自身が靈能力を持っているのか、本物の靈能者かどうか、ウソをついて人々を騙していないかどうか、という点に集約されます。江原氏は他の靈能者に対して、靈的真理を知らないとい非難しています。江原氏がこのようにスピリチュアリズムを持ち出して他の人々を非難する以上、自分自身に向けられるスピリチュアリズムサイドからの疑惑に、誠実に回答する責任と義務があることは言うまでもありません。そして何よりも、自分が人々を騙していないこと、自分には靈能力(靈視能力・靈聴能力・靈媒能力)があるということを証明するために、第三者による厳格な検証に応じるべきなのです。これについては、次回のニューズレターで詳しく取り上げる予定です。

## オーラの泉のペテンの全体

江原氏のペテンの手口の一部を明らかにしてきました。オーラの泉の全体の流れをもう一度整理すると、次のようになります。



江原氏は自らの霊能者としての名声のためにスピリチュアリズムを利用して他の霊能者との差別化をはかり、利害の一致するテレビ局と共謀して人々を騙してきました。「前世の指摘」など、この世の人々には真偽の判断ができないことを承知のうえで、人々を欺き続けてきました。最近ではスピリチュアリズムを盛んに口にし、自分のしていることがまるでスピリチュアリズムそのものであるかのように見せかけています。そして多くの批判者もまんまとその手に乗せられ、江原氏をスピリチュアリズムであるかのように見なし批判しています。

しかし江原氏がスピリチュアリズムを持ち出すのは、自らの信仰と信念からではなく、単なる隠れ蓑であり、他の霊能者との違いを明らかにして自らの名声を高め、私利私欲を追及するためなのです。江原氏のしていることはスピリチュアリズムではなく、スピリチュアリズムを利用したペテンであり人騙しにすぎません。江原氏はスピリチュアリズムではなく、自らの名声と欲のためにスピリチュアリズムを利用する偽善者なのです。

スピリチュアリズムの真理を語る者(江原氏)が、実はスピリチュアリズムから最も遠いところにいます。愛を語る者が、実は真実の愛から最も遠いところにいるのです。

### ペテンによってつくられた人気・ブーム

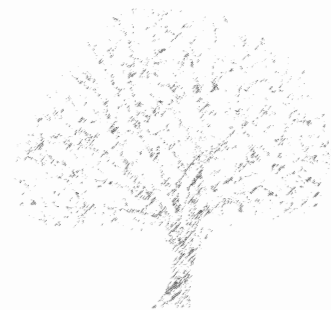
江原氏は、次々と本を出版しテレビにひんばんに出演することによって、他の霊能者とは全く違うとのイメージづくりに成功しました。そしてこれがテレビの視聴率を押し上げ、出版本の売り上げをさらに伸ばすことになりました。江原氏の出演番組や出版本は、江原氏に騙された多くの女性ファンによって支えられてきました。テレビ局は積極的にペテンに加担・共謀し、自らの視聴率稼ぎという利益のために江原氏を利用してきました。出版社も同じです。江原氏とテレビ局や出版社の利益が一致しているために、これが“江原ブーム”をつくり出すことになったのです。そこにあるのは視聴率の奴隷となっているテレビ局のエゴであり、ウソでも本当でもそん

なことより、いかにして大衆受けする本を売り出すかに腐心する出版社のエゴなのです。

テレビや書籍を見ていつも思うことは、江原氏は人を騙したり、ウソを本当らしく見せる才能に実に恵まれているということです。ペテン的才能と言ったらいいでしょうか。それと同時に江原氏は、人気の動向を見るタレント的才能にも恵まれているようです。何を語ったら人が喜び、自分をよく思うようになるのかという計算を的確にする才能を持っています。どのようにしたら人を騙すことができるのかをよく知っています。そして、それを実に巧みに演出する能力を持っています。

しかし、そうした邪道的才能によって結果的に多くのボロを出し、自らの首を絞めることになっていきます。口先だけの偽善的な発言は、一時的には何も知らない人々を騙すことはできても、語る言葉や書いた言葉の中に論理矛盾が生じ、後になるに従って必ずその不正が発覚するようになります。そして人々から矛盾を突かれ、さらにウソの上塗りをしていくようになります。

最近、たくさんの食品企業による偽装工作が露見していますが、それと全く同じようなことになっていくのです。江原氏自身は、最初は用意周到に偽装を計ったつもりでしょうが、あまりにも人々を軽視し、その心をもてあそぶ中で、多くのほころびを見せるようになっていきます。いずれ化けの皮がはがれるのは分かりきっていることを不用心にしでかすようになっていきます。“ニセモノ”が、いつまでも本物の真似をすることは不可能なのです。



## 平気でウソをつく軽率さと傲慢さ

スピリチュアリズムから見たとき、江原氏の前世の指摘はすべて作り話でありウソです。スピリチュアリズムの「霊的真理」を正しく理解している人は、このように実に簡単に結論を出すことができます。これまで見てきたように江原氏は、自分の著書の中で自らの首を絞めるようなことを平気で書いたり、かつて自分自身が言ったことと矛盾するような内容をテレビで不用意に語っています。

こうしたところに江原氏の、あまりの軽率さと人々を軽んじ舐めきっている傲慢さが表れています。まさに“頭隠して尻隠さず”といった醜態を至るところで演じています。江原氏は、前世の問題に限らずいろいろなところで、こうしたウソを平気でつきボロを出し始めています。江原氏の透視や守護霊の指摘・あの世からのメッセージも、スピリチュアリズムに照らしてみれば何ひとつ信憑性はありません。

## スピリチュアリズムを利用したことで、 今度はスピリチュアリズムによって 首を絞められる

霊的真理を知らない一般の人々は、江原氏がまことしやかに語る言葉に見事に騙されてきました。しかし「オーラの泉」のようなテレビでの詐欺行為は、今後時間の経過とともに実態が次々と暴露されることになっていくでしょう。

スピリチュアリズムを自らの名声獲得の手段とし、またウソのカムフラージュとして利用してきた不正が、今後は江原氏の首を絞めることになっていきます。なぜならスピリチュアリズムを口にすればするほど、自らの立場をスピリチュアリズムの枠の中に閉じ込めることになるからです。美輪明宏氏のようにスピリチュアリズムを名乗らないならば、不正を指摘されても“自分はスピリチュアリズムではない”と居直って批判をかわすこともできるでしょう。しかし江原氏は、自らスピリチュアリズムについて繰り返し解説しています。こうした江原氏には当然のこととして、スピリチュアリズムサイドから

の質問に誠意を持って答える義務と責任がついて回ることになります。自分の欲望追求のために利用したスピリチュアリズムによって、今度は自分の首が絞められるようになっていくのです。

## 何を言うかではなく、何をなしているかが問題 ——立派なことを言ったり書いたりするより、 正しい行為をしているかどうかすべて

江原氏自身も自分の著書で述べているように、人間の真価は、その人が何を言うか、何を書くかによって決まるものではありません。「何を実践しているか、何を行っているか」——すなわち言葉ではなく実際の行為が、その人間の価値を決定するのです。これが“スピリチュアリズム”の大原則であり鉄則です。スピリチュアリズムとは「霊的真理の実践」以外の何ものでもありません。ウソをついて人々を騙すなどということは言語道断です。

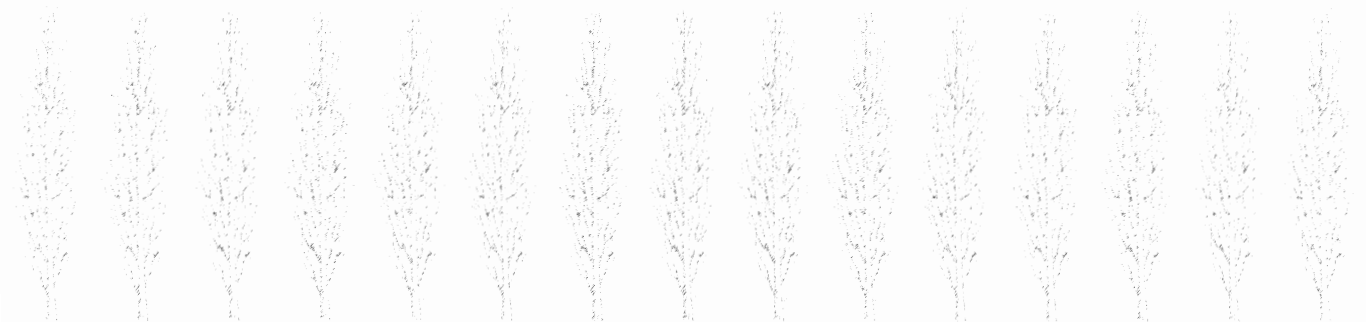
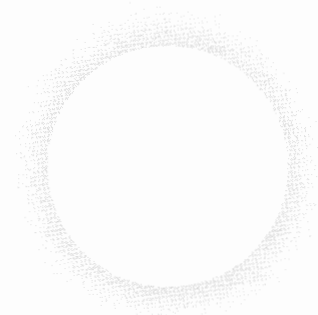
江原氏は周りからの批判に対して、自分の本をしっかり読んだのかと反論したり、霊的真理を語れない霊能者は意味がないようなことを言っています。しかし、それはスピリチュアリズムとしての正当な主張ではありません。人間の評価は、何を言うか、何を書くかではなく、何をなしているかで決まるものだからです。どんな悪人でも、口先では素晴らしいこと、正義心に富んだこと、愛情豊かなことを述べることができます。問題となるのは、江原氏の実際の行為と、その内面の動機の純粋さなのです。



神の前に、江原氏は本当に恥ずかしいことをしていないでしょうか。神と霊界の前に、自分は決して人を騙していない、間違ったことをしていないと断言できるでしょうか。奇麗事を言ったり書いたりしても、またチャリティーショーを催して寄付をしたり、困っている子供に援助の手を差し伸べるといふボランティアをしたところで、それは江原氏のこれまでの行為の正しさを証明するものではありません。神の前に、また高級霊の前に、スピリチュアリズムを汚すようなことは絶対にしていないと胸を張って言えることが肝心なのです。人騙しによって利益を得ながら、その一方でチャリティーショーやボランティアをしても、それはどこまでも偽善的行為にすぎず、自己の不正行為を正当化する免罪符にはなりません。善人を装い、一般人を味方につけて不正への追求をかわそうとしても無理なのです。

江原氏が、人々を騙していない、ウソをついていない、人々の心を弄んでいないことを証明するためには、堂々と第三者の厳格な検証に応じることが必要です。同時にスピリチュアリズムサイドからの疑問に、誠意を持って答えることが必要なのです。自らがスピリチュアリズムのためと語り、そしてスピリチュアリストであると言う以上、スピリチュアリズムからの質問には真っ先に答えるのが正当性を明らかにする第一歩なのです。

今回は、スピリチュアリズムの観点から「オーラの泉」を見てきました。オーラの泉における前世の指摘の不正を取り上げました。次回は、スピリチュアリズムから見た「天国からの手紙」です。あの世からのメッセージについての問題点を見ていくことにします。





## ☪ スピリチュアリズム・ライブラリー ☪

スピリチュアリズム・サークル「心の道場」では、スピリチュアリズム精選シリーズとして、下記の本を自費出版しています。

- ◆スピリチュアリズム入門 (169頁)  
ースピリチュアリズムが明かすー「心霊現象のメカニズム&すばらしい死後の世界」
- ◆続スピリチュアリズム入門 (256頁)  
ー高級霊訓が明かすー「霊的真理のエッセンス&霊的成長の道」
- ◆霊媒の書 (297頁)  
スピリチュアリズムの真髄「現象編」  
『The Mediums' Book』 アラン・カルデック編著/近藤千雄 訳
- ◆霊の書 (357頁)  
スピリチュアリズムの真髄「思想編」  
『The Spirits' Book』 アラン・カルデック編著/近藤千雄 訳
- ◆500に及ぶあの世からの現地報告 (437頁)  
ーエクトプラズムボックスを通じて明らかにされる死の直後の実生活ー  
『Life After Death』 ネヴィル・ランダル著/小池 英 訳
- ◆マイヤースの通信ー永遠の大道 (全訳) (271頁)  
『The Road to Immortality』 G・カミンズ著/近藤千雄 訳
- ◆マイヤースの通信ー個人的存在の彼方 (全訳) (304頁)  
『Beyond Human Personality』 G・カミンズ著/近藤千雄 訳
- ◆霊訓 (完訳・上) 『The Spirit Teachings』 (225頁)  
ステイントン・モーゼス著/近藤千雄 訳
- ◆霊訓 (完訳・下) 『The Spirit Teachings』 (260頁)  
ステイントン・モーゼス著/近藤千雄 訳
- ◆シルバーバーチは語る (443頁)  
『Teachings of Silver Birch』 A. W. オースティン編/近藤千雄 訳
- ◆シルバーバーチの霊訓 (272頁)  
ースピリチュアリズムによる霊性進化の道しるべー  
『A Voice in the Wilderness』 トニー・オーツセン編/近藤千雄 訳
- ◆シルバーバーチの霊訓 (281頁)  
ー地上人類への最高の福音ー  
『The Seed of Truth』 トニー・オーツセン編/近藤千雄 訳
- ◆シルバーバーチの霊訓 ー霊的新時代の到来ー 『The Spirit Speaks』 (301頁)  
トニー・オーツセン編/近藤千雄 訳
- ◆スピリチュアル・ヒーリングとホリスティック医学 (371頁)  
ー霊的エネルギー療法の本質と将来の医学の方向性ー

※日本スピリチュアル・ヒーラーグループ発行

❧ スピリチュアリズム・ビデオ&テープ ❧  
ライブラリー

VIDEO&DVD

『地球人類の霊性進化の道  
“スピリチュアリズム”』

— 霊的真理のエッセンス・真理編 —

ビデオ

(価格)

「真理編・前編」 2時間テープ 1本……2,000円

「真理編・後編」 2時間テープ 2本……3,500円

※別途、送料がかかります。

※ビデオは、VHSとS-VHSの2つのタイプがあります。どちらかをご指定ください。  
S-VHSのタイプの方が、よりきれいに映りますが、専用デッキでないと再生できません  
のでご注意ください。

★皆様からご要望が寄せられておりました

『地球人類の霊性進化の道  
“スピリチュアリズム”』

のDVDが完成いたしました。

DVD

「真理編・前編」

「真理編・後編」

> 2時間DVD 3枚セット (価格)  
(合計 5時間30分) ……5,500円

※別途、送料がかかります。

## TAPE&CD

### スピリチュアリズム関連書籍

#### 朗読テープ

「スピリチュアリズム入門」90分テープ 4本……………2,000円

「続スピリチュアリズム入門」

90分テープ 5本

60分テープ 1本

> 計6本……………2,800円

「500に及ぶあの世からの現地報告」

90分テープ 8本……………3,500円

#### 朗読CD

「スピリチュアリズム入門」 74分 CD 5枚……………3,000円

「続スピリチュアリズム入門」 74分 CD 7枚……………4,000円

「500に及ぶあの世からの現地報告」

74分 CD 10枚……………5,500円

※いずれも別途、送料がかかります。

明けまして、おめでとうございます。

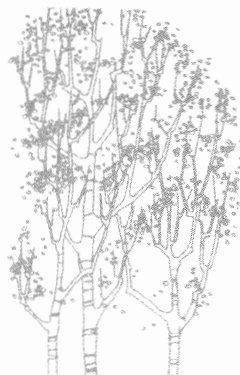
現在では、地球規模で温暖化の問題が騒がれるようになっておりますが、それはすべて地球人類のエゴから発生した残念な結果です。しかし地球にはホメオスタシス（恒常性維持システム）が備わっており、決定的な破局に至るようなことはありません。

それ以上に問題なのが、同じく地球人類のエゴから生まれた人殺しであり、富の不公平な分配の問題（貧困・飢餓）です。そして間違った宗教による人々の霊的奴隷化であり、霊的無知による現代人の心の荒廃・心の危機と言えます。

そうした地球人類の悲劇を根本から解決し、地球人類を救うために霊界の高級霊によって進められているのが“スピリチュアリズム”です。真っ先に「霊的真理」を手にした私たちスピリチュアリストは、高級霊の道具として地球の同胞のために働いていく立場に立っております。

当サークルでは、スピリチュアリズムの発展を願ってホームページの充実を図ってまいりましたが、昨年11月には「スピリチュアリズムの思想〔Ⅰ〕」をアップすることができました。今後、スピリチュアリズムの思想〔Ⅱ〕～〔Ⅳ〕の公開を予定していますが、とりあえず今年〔Ⅱ〕のアップを目指してまいります。人類への最高の奉仕のために貢献できますことを神に感謝し、力を尽くしていきたいと考えております。

新しい年が皆様方にとりまして、かけがえのない地上人生の貴重なひとこまとなりますように……。さらなる霊的成長と人々への奉仕の歩みとなりますように、心よりお祈り申し上げます。



*Spiritualism Circle*  
***Kokoro no Dojo***